

『CROWN PLUS Level 3・4 New Edition』 の特色



東京大学 山本史郎

文法・文構造について

『クラウンプラス』は、プラスという名前が示しているように、「学習指導要領」にプラスαの発展的内容を加えた検定外準教科書です。

文法事項に関して学習指導要領で扱うべき項目は、すべてLevel 3でカバーされています。さらに検定教科書では扱わない発展的な文法事項も含まれます。

例えば、分詞構文では〈接続詞＋分詞〉、〈beingが省略された分詞構文〉、また、文構造では〈There＋助動詞＋be動詞＋主語〉、〈There＋be動詞以外の動詞〉といったものも扱っています。

一歩進んだ文法項目・文構造を取り上げ、高度な英文にも対応できる力を養成するのがねらいです。

さらにLevel 4では、文法的な形式よりも、意味のカテゴリーを中心とした項目を取り上げ、それを表すにはどのような表現があるのだろうかという発想で例文が作られています。

いくつか紹介しますと、「～でありながら…（分詞構文で譲歩・同時性を表す）」、「分詞を用いて、情報をつけ加える」、「前文（の一部）を抽象語でまとめる」といったものがあります。

これらは、Level 3でひと通り学んだ文法事項を別な角度から眺めることにより、英語への理解をさらに深め、定着させようというのがねらいです。

語彙について

次に語彙ですが、学習指導要領では、中学で約1,200語、高校のコミュニケーション英語で約1,800語、計3,000語を学習することになっています。『クラウンプラス』の単語は、Level 3で約3,000語、Level 4ではさらにプラス1,500語あり、3と4を合わせると約4,500語になります。センター試験に必要な語彙レベルはLevel 3でカバー、Level 4で難関

大学にも十分対応できる語彙力を養成できます。

Level 3 改訂のポイント

昨年刊行された『クラウンプラス』の新版Level 3では、授業でより扱いやすくなるようにしました。具体的には、各レッスンの始めにあったGrammar Points（文法の要点）を本文の後ろに移動し、レッスンの導入を、文法ではなく本文に変更しました。

また、1つのレッスン本文を5つのセクションに分け、すべてページ内でパラグラフが収まるようにしてあります。そして、本文の内容を理解しているかどうかをすぐに確認できるように、次ページ（同じ見開き）にTrue or Falseを新設しました。

Expressions（イディオムを中心とした表現）では、生徒に辞書を使って調べさせたり、文脈から類推させたいという声が多かったため、今回から訳を外しました。一方、どこで学習したか、掲載ページがすぐにわかるように、巻末にリストを作りました。

つづいて問題演習に関してですが、Comprehension Checkでは、レッスンの内容を正しく把握しているかを確認するのはもちろんですが、表現する力をつけるように、英問英答の問題を中心に行いました。

Exercisesは、今までは各文法事項に対応させた確認問題が中心でしたが、今回の改訂でGrammar Pointsの文法項目だけでなく、Expressionsも合わせた文法・表現の総合的な演習にすることで、確認とともに解く力を養う問題に変更しました。

Level 4について

昨年のLevel 3につづき、現在Level 4の改訂作業を行っています。授業で扱いやすくなるようLevel 3と同様の変更を行うとともに、さらに読み応えのある英文ピースを増やし、全12レッスンの新版Level 4となって今年の11月に刊行される予定です。